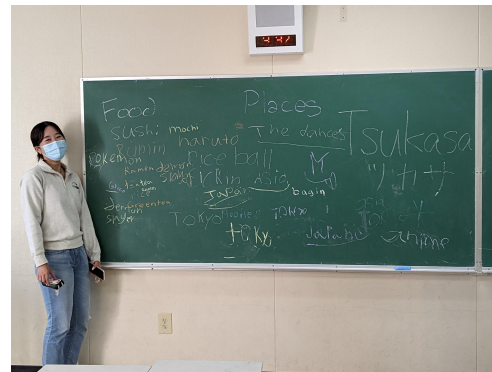




活動の反省

ツカサ & レーヴェン & リカコ

Summary of what we've done



- ★ 初回の授業は名札作りと日本について簡単な紹介。名札作りでは子ども達に私たちの名前を知ってもらうのと、彼らを知るために行った。英語の名前の下にカタカナで名前を書いた。日本についての簡単な紹介を行った時に、子ども達に日本についてどんなことを知っているかも尋ねた。多くは日本のポップカルチャーについて興味を示し、クラスでどんなことを学びたいか尋ねた時は意外にも日本語を学びたいという声が多かった。

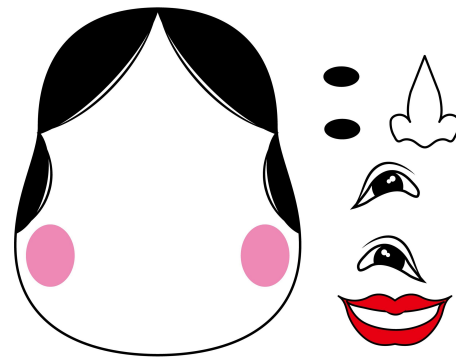


Summary of what we've done

- ★ 第二回目の授業は基本の挨拶。何人かは「こんにちは」など簡単なものを知っている様子だった。全員が言語を学ぶことを楽しんでいた。「こんにちは」「ありがとう」「すみません」「さようなら」「～さん」を教えた。さらに、少し難しい言葉として「おはよう」「こんばんは」「せんせい」「はい」「いいえ」なども教えた。これらは覚える必要はないと伝えたが、その後のワークシートを使ったアクティビティーでは全員発展編のワークシートまで埋めていた。事前に予想していたより子どもたちは強い興味を示し、楽しんでいた。



Summary of what we've done



- ★ 第三の授業はゲームのテーマ。最初は生徒達に家や学校の遊び場でどんなゲームで遊ぶかと聞いた。そして生徒達に鬼ごっこやかくれんぼなど、日本の子供達がどんなゲームで遊ぶか教えて、日本の子供達は自分達とあまり変わらない事を理解してもらった。後で福笑いの事と遊び方を教えた。そしてデモの後で福笑いの紙にパーツを切り抜いて交代で遊んでいた。後で時間があつたからババ抜きも教えて遊んだ。生徒達はババ抜きをGo Fishと比較する事ができた。



What we learned from activities (outcome)

- ★ このサービスラーニングを通して自分がいかに重要で、子ども達にとって意味のあるサービスを行っているのか知った。自分が日本人としてのバックグラウンドを提供するだけでなく、自分も彼らについて、彼らの周りの環境についても得るもの; 学びがあった。私たちが活動をする事; 授業を行うことを通して彼らが親しむものとは違う文化、言語、価値観などへの気づきに繋がり、多様性の認識理解や、他への共感/敬意などグローバルコンピテンスの能力を育むのに必要な要素に貢献していることが分かった。



What we learned from activities (outcome)

- ★ クラスマネジメントの難しさを学んだ。一瞬でも子供から注意を逸らすと、すぐに別のことを始めてしまう。子供の質問に答えていたり、授業に集中するように注意したりしている間、別の子供はすぐに飽きてしまうので、クラス全体を完璧に管理することがとても難しい。また、初めて子供達に会った時に、日本人に会った時の彼らの感動を見て、子供にとってこの経験が大きなものになることと、自分のアイデンティティの強さを学んだ。



What we learned from activities (outcome)

- ★ 私達の授業では、「Globally Competent Teaching」とその重要性について学んだ。「Globally Comptent Teaching」は、部分的に、グローバルな問題とその問題に対処する方法に焦点を当てている。また、生徒達がとる行動が変化を生むことができることを示すことにも努めている。そこで私達は、生徒達に世界の飢餓について教え、彼らの小さな行動が住んでいる世界に大きな影響を与える可能性があることを示すための授業を計画した。(SLO2)



What went well

- ★ 初回の授業では、子ども達の名前を知るために名札を作らせ、その後彼らの名前の下に日本語で名前をかいてあげた。子ども達はローマ字とは違う馴染みのない言語で書かれた自分の名前に興味津々で、それをみて喜んでいたので、子ども達の日本語クラスへの関心を高めるのに良いアクティビティだったと思う。また何を今後のクラスで学んでみたいのかを聞いたことによって、生徒が何を知りたいのか直接聞くことができたし、クラスをアクティブにできた。全員に発言の機会を与えることができた。
- ★ 挨拶の授業では子供達が興味を示して授業に集中してくれたおかげで一体感が生まれ、良い授業になった。「こんにちは」「ありがとう」などは一度は聞いたことがある日本語なので、子供達が授業内容について少し知識を持っていることが上手く働いたと思う。子供達にとって少し馴染みのあるトピックを選ぶことが成功のカギだと分かった。また、ワークシートの形式も良かった。
- ★ 福笑いの授業で子供達はゲームで遊ぶ事が大好きだった。目隠しをしているという事は他の感覚を使ってピースをどこに置くかを推測しないと出来ない事を意味していた。上手な子供もいればそうでない子供もいたが、完成品を見た時にいつも笑っていたので、子供達の腕前の違いは気にならなかった。



Challenges and how to overcome them

- ★ 子ども達はクラスの参加にとっても献身的で、発言やアクティビティに比較的参加しようと務める子どもが多いのは良い事だが、私たちが子ども達と授業を作る上で、上手くクラスにメリハリをつけることが難しかった。そのため、発言するときは手を上げてもらい、指名した子どもに話してもらいクラスをコントロールすることにした。また、クラスに関係のない質問は授業後に聞くようお願いし、クラス内容から脱線しないように気を付けるようにした。
- ★ 何か知っている日本語はないか子供達に尋ねた時、ほぼ全員が手を挙げた。どの授業にも共通することだが、全員に発言の機会を与えることは難しいため、子供達が不平等を感じないように気を配ることが大変だった。
- ★ 福笑いの授業の三分の一の時点でPYの助手が去った。後で三分の二の時点でさらに三人の子供が授業室に参加し、そのうち一人はTKだった。それから他の生徒の邪魔にならないように、子供達の注意を引き付けないとならなかった。そして私は子供達に行って、ゲームをしたいかどうか尋ねて、別のテーブルに連れて行って、福笑いの事と遊び方を教えた。



Goals and Actions for remaining service activities

- ★ 今までのクラスやこれからのクラスを通して、彼らの親しみのある文化や言語以外に触れる機会をすることで、多文化への理解や興味を育みたい。そしてそれが、彼らをグローバルな市民へと導くための第一歩、きっかけとなれば良いなと思います。
- ★ 子供達を飽きさせず、最後まで惹きつける授業をすることです。義務感で授業を受けるのではなく、自ら学びたいという気持ちを持って授業に臨み、授業内での学びや新しい発見、異文化への気づきを楽しんで欲しいです。
- ★ 子供達に世界の飢餓とおにぎりの作り方を教えることで、自分達の小さな行動が世界に良い変化をもたらすことを知ってほしいと願っています。また、おにぎりの作り方を教えることで、自分で食べ物を作ることができるようになるので、少しの自立と自信を得ることができれば私は嬉しいです。

ありがとう
ございました

